

昭和八年度國直轄 國道改良工事の實績に就て

(一)

藤

貞

—

本年度工事に使用せる材料費總額は五、〇五九、一三四圓であつて、工事費の三二・八パーセント、工費の五三パーセントに當つて居る。

いま其の内譯を品名別（金額の順位で）並に土木出張所別に列舉してみると次の如くである。

五、工事材料

別に列挙してみると次の如くである。

品名
セメント
砂利
数量
三五〇元樽
三四七立方米
金額
一、四七七、五五圓
六〇七、〇五圓

第五表 主要材料

尙ほ左記第五表は、主なる工事材料の出張所別に依る工

		京											
		千葉		七		自千葉郡幕張町		至千葉市		至千葉市		至千葉市	
		茨城		六		自新治郡中家村		至同郡真鍋村		至同郡富濱村		至同郡富濱村	
		山梨		八		自北都留郡中家村		至同郡富濱村		至同郡富濱村		至同郡富濱村	
		計		金額(圓)		平均單價(圓)		量		數		量	
神奈川		一		鎌倉郡大正村		九二六六		五九三三		一		三〇一	
同		一		高座郡藤澤町		一五八		七七八		一		一〇一	
同		一		中郡吾妻村		四〇〇		四九六		一		一〇五	
同		一		自國府津町		一七一〇		六九三三		一		一〇一	
同		一		至小田原町		一七一〇		六九三三		一		一〇一	
同		一		自富士川町		一七一〇		六九三三		一		一〇一	
同		一		至蒲原町		一七一〇		六九三三		一		一〇一	
		計		金額(圓)		平均單價(圓)		量		數		量	
福島		五		信夫郡中野村		三六二〇九		六八五		一七五五		一〇一	
宮城		四		自名取郡岩沼町		一九二〇九		六八五		一〇一		一〇一	
岩手		四		至仙臺市郡山		一九二〇九		六八五		一〇一		一〇一	
至同		四		自膽澤郡佐倉河村		一一五〇〇		六〇一		一〇〇		一〇〇	
同		四		至同郡金ヶ崎町		一一五〇〇		六〇一		一〇〇		一〇〇	

		仙臺		青森		自青森市造道		至同市大野		至同市沖館	
		秋	田	同	同	同	同	同	同	同	同
計	金額(圓)	數量	量	數	量	數	量	數	量	數	量
金	額(圓)	量	量	數	量	數	量	數	量	數	量
平	均單價(圓)										
新潟	二	青海町地內 (親不知)	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
同	長野	九 自古志郡黒條村 至南蒲原郡中島村	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同	石川	一〇 自上水内郡古間村 至同上水内郡柏原村	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同	富山	一二 河北郡 俱利加羅村地內	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同	湯瀬	一二 自射水郡小杉町 至同西礪波郡大島村	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
計	金額(圓)	數量	量	量	量	量	量	量	量	量	量
金	額(圓)	量	量	數	量	數	量	數	量	數	量
平	均單價(圓)										
新潟	二	青海町地內 (親不知)	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
同	長野	九 自古志郡黒條村 至南蒲原郡中島村	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同	石川	一〇 自上水内郡古間村 至同上水内郡柏原村	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同	富山	一二 河北郡 俱利加羅村地內	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同	湯瀬	一二 自射水郡小杉町 至同西礪波郡大島村	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

屋古名

平均單價(圓)		愛知		岐阜		三重		同三		岐阜		京都		滋賀		大阪		岡山		廣島	
數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)	數量	金額(圓)		
平均單價(圓)		計		自乙訓郡大枝村 至南桑田郡篠山村 自船井郡關部町 至同郡竹野村	一 一 一 一	八 九 八 八	一 一 一 一	六 五 四 三	一 一 一 一	六 五 四 三	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一		
金額(圓)	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000	100000		
數量	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000		
自稻葉郡厚見村 至同郡加納町	一 一	桑名郡長嶋村地內	一 一	宇治山田市地內	一 一	自吉田郡圓山西村 至同郡中藤島村	一 一	自乙訓郡大枝村 至南桑田郡篠山村 自船井郡關部町 至同郡竹野村	一 一 一 一	自稻葉郡厚見村 至同郡加納町	一 一	桑名郡長嶋村地內	一 一	宇治山田市地內	一 一	自稻葉郡厚見村 至同郡加納町	一 一	桑名郡長嶋村地內	一 一	宇治山田市地內	一 一
安藝郡矢野町及 坂村地內	一 一	都窪郡庄村下庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村中庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村中庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村下庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村中庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村下庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村中庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村下庄、及 庄地內	一 一	都窪郡庄村中庄、及 庄地內	一 一		

戶 神

阪

合		佐賀三	長崎三	大分三	福岡三	關
計	數量	金額(圓)	金額(圓)	金額(圓)	金額(圓)	下
平均單價(圓)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
計	數量	金額(圓)	金額(圓)	金額(圓)	金額(圓)	金額(圓)
平均單價(圓)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
至同郡八屋町	—	—	—	—	—	—
自筑上郡東吉富村	—	—	—	—	—	—
神崎地内	—	—	—	—	—	—
至佐賀市赤松町	—	—	—	—	—	—
自西彼杵郡日見村	—	—	—	—	—	—
至長崎市櫻馬場町	—	—	—	—	—	—

六、労働者の使用状況

本年度工事に於ける労働者の使用状況は、第六表に示す通りである。即ち

使用總人員 三、九五四、四一六人

勞力費總額 四、四九一、三四三圓

であつて、労力費の割合は、工事費の一九・一ペーセント

労働者使用人員、労力費及び一人當の平均賃銀を土木出
張所別にみれば次の如くである。

に當り、工費に對しては四七ペーセントに當つて居る。然して一人一日の平均賃銀は一圓一四錢である。

さて次に労働者使用人員、勞力費、作業日數などに付いて、稍や概括的に書いてみるとしやう。

出張所名

使用人員

労力費

平均賃銀

円

平當

東京

五三五、零八人

交兎、四〇四円

二、三二

円

平當

横濱

一五五、六三人

三一、一五四

二、三一

円

平當

仙臺

四七、〇六六人

三一、一五四

一、三一

円

平當

新潟

七八、九五人

三一、一五四

〇、九九

円

平當

名古屋

五六、一〇一人

四五、一〇〇

一、二六

円

平當

大阪

九三、四四九人

一、九一

一、九〇

円

平當

神戸

一九〇、七七九人

三五、一五五

一、六八

円

平當

下關

七五、六六六人

七五、一四五

一、二一

円

平當

合計

三、九五四、四六四人

四、九九、三五四

一、一四

円

平當

尤も之れは本年度工事が竣工に至る迄の數字であるから

更に昭和八年度中の工事と、昭和九年度への繰越工事に於けるものと、其の作業日數、労働者使用人員、労力費など

に付いて區別してみると左記イ、ロの通りである。

尙ほ労働賃銀に付いては次項で記述するが、使用人員と労力費からみた總ての職工、人夫の平均賃銀は前記の如くであつて、右調べに依り東北、信越及び北陸地方が一般に賃銀の安いことが窺はれるところである。

(イ)八年度中作業日數並労働者使用人員

出張所名

使用人員

労力費

一日平均

人

東京

二、三九日

一、一〇〇

円

人

横濱

一九四日

一、一〇一

円

人

仙臺

一九四日

一、一〇一

円

人

新潟

一九四日

一、一〇一

円

人

名古屋

一九四日

一、一〇一

円

人

大阪

一九四日

一、一〇一

円

人

神戸

一九四日

一、一〇一

円

人

下關

一九四日

一、一〇一

円

人

合計

一九四日

一、一〇一

円

人

(ロ)九年度(繰越工事)中作業日數並労働者使用人員

出張所名

作業日數

労力費

一日平均

人

東京

一九四日

一、一〇一

円

人

横濱

一九四日

一、一〇一

円

人

合計

一九四日

一、一〇一

円

人

仙	臺	一、二、四〇、〇〇〇	三五七、七六三	二元・〇	三・一
(大)	丸、七五〇	八三、六四〇	三五四		
(二)	一、一、一〇〇	二七、六三〇	三五七		
新	潟	一、九、九六〇	三五七		
(三)	一、一、一〇〇	二七、六三〇	三五七		
名	古	一、九、九六〇	三五七		
大	阪	一、九、九六〇	三五七		
神	戸	一、九、九六〇	三五七		
下	關	一、九、九六〇	三五七		
合	計	一、九、九六〇	三五七		
備	考	作業日數欄右側數字は延日數で、左側括弧内數字は平均日數である。			
(一)	工事費並工費と労力費との割合				
(二)	労力費の割合を土木出張所別に出してみると左の如くである。				
出張所名	工事費	労力費	工事費に對する割合(%)	工費に對する割合(%)	
東京	二、八四一、四五五	六九、四〇〇	三一・六	四一・〇	
横濱	一、九九、一八八	六九、四〇〇	三一・一	四一・九	
	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	三一・一	四一・九	
	三一・一一四	三一・一一四	三一・一	四一・九	
東京	二一・一〇	二一・一〇	三六・九	三五・五	
	三六・九	三六・九	三六・三	三五・五	
	三六・三	三六・三	三六・三	三五・五	
	三五・五	三五・五	三五・五	三五・五	
仙臺	一、二、四〇、〇〇〇	三五七、七六三	二元・〇	三・一	
新潟	一、九、九六〇	三五七			
名古屋	一、九、九六〇	三五七			
大阪	一、九、九六〇	三五七			
神戸	一、九、九六〇	三五七			
下關	一、九、九六〇	三五七			
合計	一、九、九六〇	三五七			
(三)	職業紹介所取扱及其他に依る使用労働者數				
中職業紹介所、又は町村役場(紹介所の無いところでは町役場で取扱)の取扱に係つたものは二、六六二、五三三人で(總人員の六七・三%)、其他に依るものは一、二九一、八八三人(總人員の三一・七%)である。其の内訳を土木出張所別に示せば次の如くである。					
出張所名	紹介所等に依るもの	其の他に依るもの	合計人員(%)	人員(%)	
東京	人員(%)	人員(%)	合計人員(%)	人員(%)	

横濱	三七・八七	六八・九
仙臺	四〇・九一	五五・一
新潟	二三・一四	三・六
名古屋	三五・一九	六・七
大阪	六五・五〇	一〇・〇
神戸	一五・七八	一五・七
下關	六九・一三	六・九
計	二、六三・五三	一、九一・八三

力費の割合が逐年遞減を示して居り、平均賃銀が本年度に於て急に高くなつたことは、事業の性質が年々變つてきて居ると、一つは財界が稍や好轉して來たことに因るものである。

八年度 七年度 六年度

労働者使用人員(人) 三・九七、四六 四、六四、〇一 五、九一、三六

労力費總額(圓) 四、九九、一、三三 五、〇五、三三 六、三五、九七

工事費に對する勞力費の割合(%) 三九・一 三・六 一・〇四

一人當平均賃銀(圓) 一・一四 一・〇三 一・〇四

(四) 前年度との比較
昭和六・七年度工事と、本年度工事との労力費の割合や平均賃銀に付いて比較してみると次の如くである。即ち労

第六表 労働者使用狀況調

府縣名	改良箇所	工種	昭和八年度中			昭和九年度中(繰越工事)			計
			日數	延人員	勞力費	日數	延人員	勞力費	
六東京	自衛隊戸町	鋪裝	三二	一五、九三	六、〇一	三二	一〇、二〇	三、〇五	一・〇四
九同	志村町地内	"	三五	一七、七〇	五、五五	三五	九、三九	一六、五三	一・〇四
九同	玉草加町地内	"	三〇	五、五三	四〇・八八	九一	一三	一、九九	一・〇四
九同	自浦和市	"	三〇	六、六五	六・七三	三一	八、二六	一、五〇	一・〇四
九同	至大宮町	"	三一	八、二六	一、五〇	三一	八、二六	一、五〇	一・〇四

古名		新鴻		秋田	
一	一	同	新	至新	自秋
同	愛	長	鴻	屋田	田
一	重	青海町地内	橋梁	一五、六二	二八、三〇
一	宇治山田市内	自黑條村	改築	一五、六二	二八、三〇
一	自知立町	至中之島村	改築	一五、六二	二八、三〇
一	至鳴海町	長野市内	鋪裝	一五、六二	二八、三〇
一	至下ノ古屋市色	自古間原村	鋪裝	一五、六二	二八、三〇
同	利	至祐原村	改築	一五、六二	二八、三〇
同	利	至新堀切村	新設	一五、六二	二八、三〇
同	利	自押堀村	灾害	一五、六二	二八、三〇
同	利	金澤市内	鋪裝	一五、六二	二八、三〇
同	利	俱利伽羅村	改築	一五、六二	二八、三〇
同	利	南谷村地内	復舊	一五、六二	二八、三〇
同	利	自小杉村町	鋪裝	一五、六二	二八、三〇
同	利	至大島村	改築	一五、六二	二八、三〇
同	利	重長島村地内	鋪裝	一五、六二	二八、三〇
同	利	宇治山田市内	改築	一五、六二	二八、三〇
同	利	自知立町	鋪裝	一五、六二	二八、三〇
同	利	至鳴海町	改築	一五、六二	二八、三〇
同	利	至下ノ古屋市色	鋪裝	一五、六二	二八、三〇
計				一五、六二	二八、三〇

戸神

關下

二 兵 庫	自阿彌陀村 至花田村	鋪裝	三一	一五、九五	一夫、六六	巽五	一〇〇	三、八四	巽、六四	一四	一九〇、七七	三五、六五	三八、二
計		(単)	一五、九五	一夫、六六	巽五	一〇〇	三、八四	巽、六四	一四	一九〇、七七	三五、六五	三八、二	
二 山 口	自小月町 至長府町	新設 改築	三〇一	一五、九五	一七、六六	巽〇	八一	八二九	一、六六四	一、五	一九〇、九一	二二、六三	二八、四
二 福 岡	自東郷町地内 鋪裝	鋪裝	三八	三〇、一七	元、三七	巽	三一	一〇〇	三〇、五〇	五〇	三一、一七	一八、四	
二 同 河	自福岡市 至那珂河村	新設	三七	巽、四四	五四、四四	巽〇	三一	一〇三	九六四	二、一七四	六七	五三、六八	三一、八
二 熊 本	自河川尻町地 至龍峯村村	新設 改築	三〇三	一一、一四	一〇、三四	三〇二	一八七	七、三九	八、四五	三	二八、五七	一四、七四	三八、三
二 福 岡	自吉富村 至八幡町新設	一〇〇、五五	一五、一五	三五、一〇	三、三二	一六六	一五、一五四	一五、一五	一五、一五四	一五、一五	一九〇、九一	二二、六三	二八、四
三 大 分	八幡村地内 改築	三五	一〇四、五五	三六、四四	三一	一〇五、一五	一五、一五	一五、一五四	一五、一五	一五、一五	一九〇、九一	二二、六三	二八、四
三 佐 賀	自佐賀市 至嘉瀬村新設	三〇八	三八、六〇	三五、八五	三一	三一八	六、六七	六、四九	三〇	巽、一九	巽、一九	三六、三	
五 長 崎	自日向市 至長崎村鋪裝	三五	三五、四八五	一〇八	二五三	二六、三五	三五、三五	三五、三五	三〇	巽、一九	巽、一九	三六、三	
計		(単)	一五、九五	一七、六六	一六、八五	一九、一九一	一、二六	公、九四	一〇、八〇	一〇八	九、一九一	八〇、八六	一九〇、七七
合 計		(単)	一五、九五	一七、六六	一六、八五	一九、一九一	一、二六	公、九四	一〇、八〇	一〇八	九、一九一	八〇、八六	一九〇、七七

備考 作業日数欄括弧内数字は平均作業日数を示す。

七、労働賃銀

本年度工事に使役せる各種職工及人夫の勞働賃銀に付いては、第七表に示す通りであるが、更に全工事箇所に於け

る職工別の平均賃銀と、並びに最高、最低賃銀及其の地方を調べてみると次の通りである。

職工	名	平均賃銀	最高		最低	
			賃銀	地方名	賃銀	地方名
熟練工	大工	一・五	三・七	奈良	〇・七	岩宮
	石工	一・七	四・〇	(新中之島)湯	〇・七	宮城
	鐵筋工	一・五	二・一	富山	〇・八	岩手
	鐵冶工	一・五	二・〇	(大門)	〇・七	城
	鋪裝工	一・五	二・〇	福奈	〇・七	手城
定工夫	土官	一・五	二・〇	富島京	〇・八	和歌山
	機械工	一・八	二・〇	福岡	〇・九	長野
	愛知	四・〇	二・五	(新中之島)潟	〇・七	森城
兵庫	廣岡	一・〇	一・〇	青葉	〇・九	馬城
島山				群宮	〇・八	玉城
				群宮	〇・七	馬城
				群宮	〇・七	城

特殊人夫	坑夫		煉瓦工		潜水夫	
	リコート	工	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
女人夫	男人夫	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇	一・〇
	不熟練工	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五
	左官	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五
	土工	一・五	一・五	一・五	一・五	一・五
	機械工	一・八	一・八	一・八	一・八	一・八
	愛知	四・〇	二・五	福岡	一・〇	青島
	兵庫	一・〇	一・〇	廣島	一・〇	京島
	島山	一・〇	一・〇	山形	一・〇	新潟
	森城	一・〇	一・〇	馬場	一・〇	島根
	城玉	一・〇	一・〇	長野	一・〇	新潟
	馬城	一・〇	一・〇	福島	一・〇	東京
	城馬	一・〇	一・〇	島根	一・〇	志村
	外群七縣馬	一・〇	一・〇	新潟	一・〇	新潟
	手賀	一・〇	一・〇	福島	一・〇	東京
	滋賀	一・〇	一・〇	山形	一・〇	志村
	新潟	一・〇	一・〇	新潟	一・〇	新潟
	不知鴻	一・〇	一・〇	島根	一・〇	新潟

第七表 勞動賃銀調

熟

練

五

特殊人夫

不熟練工

臺 仙

新
鴻

海
珠

說

新山形莊

卷五

渴

八、労働者の死傷

尙ほ前二箇年度と比較してみると次の様な状態である。

本年度工事に於て、使役せる労働者中より一九人の死亡者と、一、五六六人の重輕傷者（第八表参照）を出したことは、まことに遺憾とするところであつて、本稿を執筆するに際して、遭難犠牲者の靈に對し深く追悼の意を表し、其の冥福を祈るものである。

第八表 勞働者の死傷調

所出張
府縣名

事務所名
國道改良
死亡
死傷者數
重傷
三人
輕傷
三人

計

摘

要

仙		濱横		京東			
青	岩	宮	福	靜	同	千	埼
森	手	城	島	奈	神	茨	東
				川	梨	葉	京
					城	馬	同
						玉	埼
				計		金	東
						浦	京
						草	同
						志	埼
						加	東
						村	京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京
							同
							埼
							東
							京

	阪	神戶	下關	
島根	廣島	廣島	島根	
奈良	和歌山	和歌山	奈良	
島根	島根	島根	島根	
計	計	計	計	
兵庫	兵庫	兵庫	兵庫	
山口	山口	山口	山口	
岡山	岡山	岡山	岡山	
熊本	熊本	熊本	熊本	
福岡	福岡	福岡	福岡	
大分	大分	大分	大分	
佐賀	佐賀	佐賀	佐賀	
長崎	長崎	長崎	長崎	
計	計	計	計	
五	一	一	一	
四	一	一	一	
三	一	一	一	
二	一	一	一	
一	一	一	一	
三〇	三〇	三〇	三〇	
二九	二九	二九	二九	
二八	二八	二八	二八	
二七	二七	二七	二七	
二六	二六	二六	二六	
二五	二五	二五	二五	
二四	二四	二四	二四	
二三	二三	二三	二三	
二二	二二	二二	二二	
二一	二一	二一	二一	
二〇	二〇	二〇	二〇	
一九	一九	一九	一九	
一八	一八	一八	一八	
一七	一七	一七	一七	
一六	一六	一六	一六	
一五	一五	一五	一五	
一四	一四	一四	一四	
一三	一三	一三	一三	
一二	一二	一二	一二	
一一	一一	一一	一一	
一〇	一〇	一〇	一〇	
九	九	九	九	
八	八	八	八	
七	七	七	七	
六	六	六	六	
五	五	五	五	
四	四	四	四	
三	三	三	三	
二	二	二	二	
一	一	一	一	
〇	〇	〇	〇	
九〇	九〇	九〇	九〇	
八〇	八〇	八〇	八〇	
七〇	七〇	七〇	七〇	
六〇	六〇	六〇	六〇	
五〇	五〇	五〇	五〇	
四〇	四〇	四〇	四〇	
三〇	三〇	三〇	三〇	
二〇	二〇	二〇	二〇	
一〇	一〇	一〇	一〇	
九	九	九	九	
八	八	八	八	
七	七	七	七	
六	六	六	六	
五	五	五	五	
四	四	四	四	
三	三	三	三	
二	二	二	二	
一	一	一	一	
〇	〇	〇	〇	

然して昭和八年度中全國を通じての平均進捗工程は約八五パーセントで、即ち約一五パーセントの工事が昭和九年度に繰越されたのであつて、此の繰越金額は二、一一二、三〇七圓である。そこで此の繰越工事も九年度内に滞りなく完了し、昭和八年度國直轄國道改良工事の結果としては

本年度國道改良工事の實績に就いては、如上極めて不備

工事費精算額
一五、四四三、九一五圓

ながらも、一般に亘つて述べたところであるが、更に最後に當初の計畫と、其の結果とに付いて一言付け加へて擲筆することにしよう。

抑も本年度工事は當初豫算金額一五、三七三、五〇〇圓を以て、労働者延人員三、七六四、七三四人（此の勞力費は四、二五二、六九三圓である）を使役し、延長一六九杆

餘を改良する豫定であつたが、其の後事務費に剩餘を生じたので、追加工事費として八七、〇〇〇圓を流用したのであつて、結局工事費は一五、四六〇、五〇〇圓となつたのである。

労働者使用人員 三、九五四、四一六人

附記 前號に誤植があつたから訂正して置く。

労力費總額 四、四九一、三四三圓

頁 段 行目 誤 正

と謂ふ實績を得たのであつて、尙ほ且つ労働者の紛擾等も

八四 下段 二行目 然し 然して

無く、極めて順調に而かも當初の豫期以上の好成績を收め

九〇 一行目 三〇九圓 三〇・九圓

得たことは、之れ偏に關係者各位の奮勵努力に依るもので、

一〇〇 四行目 五一三圓 五一三圓

茲に深甚なる感謝の意を表して本稿を結ぶ。

(完)

自動車製造事業法の實施と

道路改良國策の樹立

N T 生

に當るであらう。

國家産業の開發促進策として、又國防施設の充備策として、自動車製造事業法が、第六十九回帝國議會の協賛を経たから不遠其の實施を見るであらう。商工省も陸軍省も該法實施に就いては多大なる期待と努力とを拂ふものである

法は法にして單なる文獻に外ならないが、其の活用は之を掌る人にあるのは敢て吾等の言ふを待たずして明かなる所であるが自動車製造事業法の實施に依りて大衆車の發達は著しく助長せられ外國會社の進出は防止せられ國產自動

車の開発促進策として、又國防施設の充備策として、自動車製造事業法が、第六十九回帝國議會の協賛を経たから不遠其の實施を見るであらう。商工省も陸軍省も該